

new project

JACRにおける新たな事業



理事長
猿木 信裕
群馬県衛生環境研究所

J-CIP 患者目線の情報発信 プロジェクト

2016年1月から「がん登録等の推進に関する法律」が施行され、いよいよ全国がん登録がスタートしました。日本がん登録協議会(JACR)では、効果的ながん対策の推進に寄与するため、これまでの都道府県単位の地域がん登録事業への支援に加え、がん登録由来データの利活用の充実を支援するために、支援活動の範囲を広げ、院内がん登録関係者や患者会の皆様とも協力していくことになりました。

JACRでは、患者さんにわかりやすい情報発信を目指して、「患者目線の情報発信プロジェクト(Japan Cancer Information Partnership:J-CIP)」を開始しました。

J-CIPの概念図を示します(図)。がん患者さんをはじめとして国民のよりよい生活を実現するために、J-CIPでは、これまで蓄積したがん登録データの利活用を支援するだけでなく、患者・家族、医療者、がん登録関係者、研究者、企業、行政が協力していく枠組みを作り、①J-CIP Local(地域に密着したがん情報の発信)、②J-CIP Global(国際標準の質の高いがん登録資料の作成)、③J-CIP Empower(がん登録資料の活用支援)の3つの柱を中心に、活動していきます。

患者さんは、がんと告知された時、自分の知りたい情報を求めて、膨大な量の情報の海を泳ぎ始めます。JACRでは、がん患者さんとその御家族が情報の海に溺れる事がないように、関係する多くの皆様と協力して、これまで蓄積した地域のがん情報を活かし、地域だけでなく、全国レベルの情報分析も行いながら、皆様にがんに関する理解を深めるのに役立つ情報を発信していくお手伝いをしていきたいと思っておりますので、どうぞご支援をよろしくお願いいたします。

ローカル(Local) について

「がん登録推進法」が施行され、JACRは新たなビジョンを掲げ、新生JACRとして活動を始めています。その1つが、がんサバイバーと連携し、全ての国民の保健・医療・療養の増進に寄与することを目的とするJ-CIPプロジェクトです。本プロジェクトのうちJ-CIP ローカルでは、地域に密着したがん情報の発信を支えたいと考えています。47都道府県におけるがん登録由来のデータ利活用については、まだまだ温度差もあり、がん登録事業の体制1つをとっても各県それぞれの地域特性があり、異なる点多々あります。

また各県の患者会では、居住する地域のがん情報や統計データを活用したいと考えていたとしても、どのように扱っていいのかわからない、またどこに相談したらいいのかわからない、といったケースも多いのではないかと思います。

J-CIP ローカルでは、こうした市町村レベル、県レベルで科学的かつ効果的ながん対策の推進に寄与できるよう、がん登録由来資料の利活用を支援したいと考えています。「こんな情報があつたらいいのになあ」という意見を拾いながら、各県の担当者、がんサバイバー、研究者や医療者が一緒に考えていけるような活動にしていきたいと考えています。まず手始めに、J-CIPローカルでは『群馬県』のWebページの作成を始めています。J-CIPならではのページになるよう、がんサバイバーの方々からの意見は非常に貴重です。将来的には47都道府県すべてのWebを作成し、地域のサバイバーの方だけでなく、広く活用していただけるような内容で情報発信をしていきたいと考えています。

『群馬県』に続き、独自の情報発信をしたい県がありましたら、ぜひお手伝いをさせていただきます。その他、各都道府県の実情を把握し、要望などを集めるためにも、近く調査を実施したいと考えています。その際はぜひ、ご協力をお願い致します。



監事
片山 佳代子
神奈川県立がんセンター
臨床研究所
がん予防・情報学部





片野田 耕太

国立がん研究センター
がん対策情報センター
がん統計・総合解析研究部

● エンパワー (Empower) について

J-CIPの3つの柱の1つ、エンパワー (Empower) は、「がん登録資料の活用支援」です。Empowerという言葉は、Power (力) という語に Em- (与える) という接頭語がついたもので、「力を与える」という意味です。Em-と同じ意味の接頭語に En- があり、courage (勇気) とくっついて Encourage (勇気を与える) という意味になります。

J-CIP エンパワーは、がん登録に携わるすべての人に、がん登録資料の活用のための「力」を与えることを目的としています。具体的には、講演会、研修会、解析支援などを通じて、JACRがこれまで培ってきたがん登録資料の活用ノウハウを伝授します。がん登録資料の活用にはいろんな「力」が必要です。解析計画の立案、統計解析、解析結果の解釈、いずれにおいても専門的な知識とスキルが求められます。国際学会などで最新の知識や方法を学ぶ必要もあります。がん登録資料をこういうふうに分りたいけどそのノウハウがない、という方々はたくさんいらっしゃると思います。J-CIP エンパワーはそんな方々に、がん登録資料の活用のための「力」を与えるために立ち上げられました。

これまでJACRは、学術集会などでさまざまな講演会、研修会を企画してきました。J-CIP エンパワーはその活動をさらに発展させて、よりきめ細やかなニーズに応えるものになると期待しています。2017年4月、私の所属する国立がん研究センターにも、がん登録を始めとする統計資料の解析を担う「がん統計・総合解析研究部」ができました。今後J-CIP エンパワーと密接に連携して、がん登録資料の活用を加速させていきたいと考えています。研究者や医療者だけでなく、行政、企業、がん登録実務者、患者・家族の方々などが、J-CIP エンパワーを通じて「力」を育み、がん登録資料の活用の輪が広まることを願っています。

● グローバル (Global) について

JACRの新たなビジョンであるJ-CIPプロジェクトの三本柱の一つ J-CIP Globalは日本のがん登録資料を国際標準レベルの質の高いものとし、国内だけでなく、国際的な場面でも活用できるようにすることを目標と掲げています。



専門委員
伊藤 ゆり

大阪国際がんセンター
がん対策センター
疫学統計部

Japan Cancer Information Partnership

J-CIP Localが地域に密着した情報発信を行うので、Globalではより広い視点でがん登録資料をわかりやすく整理し、日本の代表値としての統計資料を情報発信していく予定です。国立がん研究センターの情報発信は、網羅的かつ包括的ですが、情報量が多く、専門家であっても使いたい情報にたどり着くのが難しいことがあります。また、そのデータの意図する点や解釈が困難なこともあります。そこで、J-CIP Globalでは、より患者さん目線となって、このデータはどのように解釈するのか、どんな弱点があるのかなどをわかりやすく解説した上で、情報発信できればと思っています。そのためには、患者さんやご家族、一般の利用者の皆様、また実務者、行政、医療従事者の皆様とインタラクティブに内容について話し合い、更新していく必要があると考えています。

国際標準の質の高いがん登録資料にするためには、全国がん登録制度のもと、完全性の高いがん登録資料を蓄積していくだけでなく、欧米レベルでがん登録資料を活用できるインフラ整備が必要です。例えば、がん医療に関するベンチマーキング国際比較研究に参画するにはがん登録データだけでは不十分であり、個人IDを軸として各種保健医療データベースとリンケージを行う必要があります。全国がん登録データが利用できるのを待つのではなく、既に長期間蓄積された一部の高精度府県のデータを活用し、がん登録資料を他のデータベースとリンケージすることでどのように公衆衛生上、役に立つのかをわかりやすく示すこともJ-CIP Globalの役割だと思っています。アジアのみならず世界をリードするがん登録大国となるべく、新しいプロジェクトで皆様と協働できるのを楽しみにしています。



理事長
猿木 信裕
群馬県衛生環境研究所

J-CIP 患者目線の情報発信 プロジェクト

2016年1月から「がん登録等の推進に関する法律」が施行され、いよいよ全国がん登録がスタートしました。日本がん登録協議会(JACR)では、効果的ながん対策の推進に寄与するため、これまでの都道府県単位の地域がん登録事業への支援に加え、がん登録由来データの利活用の充実を支援するために、支援活動の範囲を広げ、院内がん登録関係者や患者会の皆様とも協力していくことになりました。

JACRでは、患者さんにわかりやすい情報発信を目指して、「患者目線の情報発信プロジェクト(Japan Cancer Information Partnership:J-CIP)」を開始しました。

J-CIPの概念図を示します(図)。がん患者さんをはじめとして国民のよりよい生活を実現するために、J-CIPでは、これまで蓄積したがん登録データの利活用を支援するだけでなく、患者・家族、医療者、がん登録関係者、研究者、企業、行政が協力していく枠組みを作り、①J-CIP Local(地域に密着したがん情報の発信)、②J-CIP Global(国際標準の質の高いがん登録資料の作成)、③J-CIP Empower(がん登録資料の活用支援)の3つの柱を中心に、活動していきます。

患者さんは、がんと告知された時、自分の知りたい情報を求めて、膨大な量の情報の海を泳ぎ始めます。JACRでは、がん患者さんとその御家族が情報の海に溺れる事がないように、関係する多くの皆様と協力して、これまで蓄積した地域のがん情報を活かし、地域だけでなく、全国レベルの情報分析も行いながら、皆様にがんに関する理解を深めるのに役立つ情報を発信していくお手伝いをしていきたいと思っておりますので、どうぞご支援をよろしくお願いいたします。

ローカル(Local) について

「がん登録推進法」が施行され、JACRは新たなビジョンを掲げ、新生JACRとして活動を始めています。その1つが、がんサバイバーと連携し、全ての国民の保健・医療・療養の増進に寄与することを目的とするJ-CIPプロジェクトです。本プロジェクトのうちJ-CIP ローカルでは、地域に密着したがん情報の発信を支えたいと考えています。47都道府県におけるがん登録由来のデータ利活用については、まだまだ温度差もあり、がん登録事業の体制1つをとっても各県それぞれの地域特性があり、異なる点多々あります。

また各県の患者会では、居住する地域のがん情報や統計データを活用したいと考えていたとしても、どのように扱っていいのか、またどこに相談したらいいのかわからない、といったケースも多いのではないかと思います。

J-CIP ローカルでは、こうした市町村レベル、県レベルで科学的かつ効果的ながん対策の推進に寄与できるよう、がん登録由来資料の利活用を支援したいと考えています。「こんな情報があつたらいいのになあ」という意見を拾いながら、各県の担当者、がんサバイバー、研究者や医療者が一緒に考えていけるような活動にしていきたいと考えています。まず手始めに、J-CIPローカルでは「群馬県」のWebページの作成を始めています。J-CIPならではのページになるよう、がんサバイバーの方々からの意見は非常に貴重です。将来的には47都道府県すべてのWebを作成し、地域のサバイバーの方だけでなく、広く活用していただけるような内容で情報発信をしていきたいと考えています。

『群馬県』に続き、独自の情報発信をしたい県がありましたら、ぜひお手伝いをさせてください。その他、各都道府県の実情を把握し、要望などを集めるためにも、近く調査を実施したいと考えています。その際はぜひ、ご協力をお願い致します。



監事
片山 佳代子
神奈川県立がんセンター
臨床研究所
がん予防・情報学部



片野田 耕太
国立がん研究センター
がん対策情報センター
がん統計・総合解析研究部

エンパワー(Empower)について

J-CIPの3つの柱の1つ、エンパワー(Empower)は、「がん登録資料の活用支援」です。Empowerという言葉は、Power(力)という語にEm-(与える)という接頭語がついたもので、「力を与える」という意味です。Em-と同じ意味の接頭語にEn-があり、courage(勇気)とくっついてEncourage(勇気を与える)という意味になります。

J-CIP エンパワーは、がん登録に携わるすべての人に、がん登録資料の活用のための「力」を与えることを目的としています。具体的には、講演会、研修会、解析支援などを通じて、JACRがこれまで培ってきたがん登録資料の活用ノウハウを伝授します。がん登録資料の活用にはいろんな「力」が必要です。解析計画の立案、統計解析、解析結果の解釈、いずれにおいても専門的な知識とスキルが求められます。国際学会などで最新の知識や方法を学ぶ必要もあります。がん登録資料をこういうふうに分りたいけどそのノウハウがない、という方はたくさんいらっしゃると思います。J-CIP エンパワーはそんな方々に、がん登録資料の活用のための「力」を与えるために立ち上げられました。

これまでJACRは、学術集会などでさまざまな講演会、研修会を企画してきました。J-CIP エンパワーはその活動をさらに発展させて、よりきめ細やかなニーズに応えるものになると期待しています。2017年4月、私の所属する国立がん研究センターにも、がん登録を始めとする統計資料の解析を担う「がん統計・総合解析研究部」ができました。今後J-CIP エンパワーと密接に連携して、がん登録資料の活用を加速させていきたいと考えています。研究者や医療者だけでなく、行政、企業、がん登録実務者、患者・家族の方々などが、J-CIP エンパワーを通じて「力」を育み、がん登録資料の活用の輪が広がることを願っています。

グローバル(Global)について

JACRの新たなビジョンであるJCIPプロジェクトの三本柱の一つ JCIP Globalは日本のがん登録資料を国際標準レベルの質の高いものとし、国内だけでなく、国際的な場面でも活用できるようにすることを目標と掲げています。



専門委員
伊藤 ゆり
大阪国際がんセンター
がん対策センター
疫学統計部

JCIP Localが地域に密着した情報発信を行うので、Globalではより広い視点でがん登録資料をわかりやすく整理し、日本の代表値としての統計資料を情報発信していく予定です。国立がん研究センターの情報発信は、網羅的かつ包括的ですが、情報量が多く、専門家であっても使いたい情報にたどり着くのが難しいことがあります。また、そのデータの意図する点や解釈が困難なこともあります。そこで、JCIP Globalでは、より患者さん目線となって、このデータはどのように解釈するのか、どんな弱点があるのかなどをわかりやすく解説した上で、情報発信できればと思っています。そのためには、患者さんやご家族、一般の利用者の皆様、また実務者、行政、医療従事者の皆様とインタラクティブに内容について話し合い、更新していく必要があると考えています。

国際標準の質の高いがん登録資料にするためには、全国がん登録制度のもと、完全性の高いがん登録資料を蓄積してだけでなく、欧米レベルでがん登録資料を活用できるインフラ整備が必要です。例えば、がん医療に関するベンチマーキング国際比較研究に参画するにはがん登録データだけでは不十分であり、個人IDを軸として各種保健医療データベースとリンケージを行う必要があります。全国がん登録データが利用できるのを待つのではなく、既に長期間蓄積された一部の高精度府県のデータを活用し、がん登録資料を他のデータベースとリンケージすることでどのように公衆衛生上、役に立つのかをわかりやすく示すこともJCIP Globalの役割だと思っています。アジアのみならず世界をリードするがん登録大国となるべく、新しいプロジェクトで皆様と協働できるのを楽しみにしています。